

共立女子第二中学校

2026年度

入学試験問題（1回PM）

【 国 語 】

試験時間 50 分

【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一～三で、全部で11ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督の先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

大学生の頃に京都の田舎で、3畝ほどの小さな田んぼを借りて無農薬の稲づくりをしていた。数人の有志で車で2時間ほどかけて時々田んぼに行つて、その近くにある小さな小屋で寝泊まりして農作業するというもので、田んぼは農家の人から無償で貸してもらっていたので、今考えるとずいぶんと恵まれた体験をさせてもらっていたものだ。そこに集う人々は、学生と、ちよつと怪しげなお兄さんと、ちよつと怪しげなおじさんなどがいたが、夜は酒を飲みながら他愛もない話をして過ごすのが常だった。ある時、そのちよつと怪しげなお兄さんの一人が「人に迷惑をかけることなんて、何でもない」というようなことを言ったことに、僕はひっかかり「①「なんで人に迷惑をかけていいんですか？」と、突っかかってしまった。そのお兄さんはちよつと困った顔をして、「いやいや、そういう話じゃないんだけど」みたいな、答えのような答えてないようなことを言ってお茶を濁し、話を流してしまった。もうずいぶん前の話だが、その時のことは何かずつと心に残っていた。

「人に迷惑をかける」と「人に迷惑をかけない」ことの、どっちが良いかと言えば、その答えは明らかかなように思える。そうではなくても僕たちは日本人だ。「人様に迷惑をかけないように」を念仏のように唱えて育てられてきた。「人に迷惑をかけることを何とも思わない」と言わんばかりの言葉に、当時の自分は少し憤りを感じたのだと思うが、今はそのお兄さんが何を言いたかったのか、少しわかるような気もする。

ブフネラというアリマキ(アブラムシ)と共生している細菌がいる。アリマキは植物の害虫で師管液を吸汁して生きている。師管液には光合成に由来する糖分が多く含まれているが、タンパク質のもととなるアミノ酸はほとんど含まれておらず、アリマキは常に糖分過多である。ブフネラはそんなアリマキにアミノ酸を合成して与え、その代わりに過分にある糖をもらって生きている。ブフネラとアリマキの共生は細胞内共生という少し特殊な形態で行われており、アリマキは体内に菌細胞という特別な細胞を作り、ブフネラはほぼ一生をその菌細胞の中だけで過ごすことになる。彼らの共生の歴史は長く、共生生活を始めてからすでに2億年になると推定されている。2000年に日本人研究者によって、このブフネラのゲノム配列が決定されたが、その結果は驚くべきものだった。

ブフネラは私たちの腸内にいる大腸菌と近縁の細菌だが、大腸菌と比べると持っている遺伝子の数が約7分の1になっていた。これはアリマキの菌細胞内での長い共生生活の間に、アリマキ側から提供してもらえるものは、自分で作る必要もないよねと、どんどん遺伝子を捨てていった結果と考えられている。私たち人間も、たとえば結婚すると、それまで別々にもっていた洗濯機とかアイロンとか炊飯器とか、二つあっても仕方のないものがたくさん出てきて、人にあげたり捨てたりして処分することがあるが、それと同じようにブフネラは自分の遺伝子を次々と処分してしまい、気づけば2億年の間に遺伝子の数が7分の1になってしまったというこ
とらしい。

しかし、そんなブフネラは当然もうアリマキと離れては生きていけない。大腸菌なら人の体内から外に出て、たとえば川でも池の中でも生きていけるが、ブフネラはアリマキの体から取り出すと、自然界では生きていけないし、人工的にどんな栄養素を与えても培養すらできない。自分ひとりでは外敵と戦うことはおろか、自分の細胞膜さえ作れないのである。大学でそんなブフネラの話を紹介すると、ブフネラはもう生物じゃない、という意見が出てくる。ブフネラはアリマキの体外に出てひとりで生きていけない以上もうアリマキの一部であり、一人前の独立した生物として認めることはできないということだ。ブフネラの生態を考えれば、^④もつともな意見である。

しかし一方で、果たして「独立して」生きている生物など、本当にいるのだろうか？とも思う。**ア**たとえば人間はどうだろう？ 私たちの食べ物は、野菜であれ、肉であれ、他の生物に依存している。実はアリマキと同じで、人間はアミノ酸のいくつかを自分で十分な量作ることができず、他の生物から摂取しなければ生きていけない。**イ**人間は肉や魚といった食物からそれらを得ており、ブフネラのように特定の生物に依存しないと生きていけない訳ではもちろんない。ただ、改めて考えてみれば、依存する生物が生きているか死んでいるか、あるいは特定なものか不特定多数かといったことに、何か本質的な違いがあるだろうか？

ウつまり食物にせよ、それに含まれるアミノ酸にせよ、呼吸のための酸素にせよ、それらはすべて他の生物の存在に依存している。**エ**

そう私たちは、牛や豚やニワトリに、^⑤迷惑をかけながら生きている。それが私たちの本当の姿である。そしてそれは程度の差こそ

あれ、人間だけでなく現在この地球上に存在するすべての生物に共通する姿と言ってよい。たとえ他の生物を捕食することのない植物であっても、光合成に必要な二酸化炭素は、他の生物の呼気によって大気中に供給されている。また植物の多くは菌根菌という共生菌の存在がなければ、土から十分な養分を吸収することができない。決して「独立して」生きていく訳ではないのだ。この世界は、すべてを完璧かんぺきにこなし、他の生物の助けなど必要のない生き物たちが集まってできているのではなく、それ単独では生きていけない、不完全でいびつな生き物で溢あふれている。そして、それらがお互たがいに補い合い、つながって全体の存在を可能にしている。それが「生命」の本当の姿である。

そして人間社会もその縮図⑥である。周囲を見渡せば、植物のように基本的には多くのことを自分でこなす独立型の人もいれば、他人の助けがなければ生きていけないような従属型というか、寄生的な人たちもいる。そんな寄生的な人たちは一般的いっぱんてきに言えば「迷惑」な存在だろうし、自分のことくらい自分でやって欲しいと思うのが人情である。しかし、この世からすべての「迷惑」がなくなれば、より良い世界になるかと言えば、必ずしもそうではないと、今は思う。

日本では「人様に迷惑をかけないように」と教えられて育つが、インドでは「お前は人に迷惑かけて生きているのだから、⑦」と教えられるそう。それは社会というものが、そういった双方向そうほうこうの「迷惑」を介かしてつながっていることを教えてくれている。何かより豊かな世界観ではないだろうか。

そうなのだ。もろう側に喜びがあれば、実は与える側にも喜びはある。親子関係などは、その最たる例だろう。その関係が強制や過度に一方的なものでない限り、「迷惑」がまったくない世界より、より豊かで喜びに満ちた世界が「迷惑」により生まれてくる可能性はあるのだと思う。あの怪しげなお兄さんはそういうことを言いたかったのだろう。

「中屋敷均『わからない世界と向き合うために』による」

問一 ① 『なんで人に迷惑をかけていいんですか?』と、突っかかってしまった』について、その理由として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 人に迷惑をかけていることに気づかないお兄さんに怒りを覚えたから。
イ 答えになつていないようなことを言われ、話を流されてしまったから。
ウ 自分と違う考えを持った相手を許せるような心の広さがなかったから。
エ 人に迷惑をかけることはいけないことだと教えられて育ってきたから。

問二 ②「共生生活」の説明として適するものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア ブフネラはアリマキに糖をもらう代わりにアミノ酸を与えている。

イ ブフネラはアリマキにアミノ酸をもらう代わりに糖を与えている。

ウ アリマキは体内に菌細胞を作り、ブフネラはその中でほぼ一生を過ごす。

エ ブフネラは体内に菌細胞を作り、アリマキはその中でほぼ一生を過ごす。

問三 ③「洗濯機とかアイロンとか炊飯器とか」について、これは何をたとえたものですか。本文中より一語でぬき出しなさい。

問四 ④「もつともな意見」の内容を本文中より十三字でぬき出しなさい。

問五 次の一文が本文中よりぬけています。アくエのどこにもどせばよいですか。記号で答えなさい。

また、人間は呼吸によって酸素を得ているが、それは陸上の植物や海の藻類（そるい）などが光合成をすることで生み出されたものだ。

問六 ⑤「迷惑をかけながら生きている」とはここではどういうことですか。本文中の語句を用いて五十字以内で説明しなさい。

問七 ⑥「縮図」について、本文中での意味として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 探しているものがどこにあるかを示したもの。 イ 同じ性質のものを規模を小さくして表したもの。

ウ 二つのものの違いをわかりやすく比べたもの。 エ 後世に残すためにものごとを正確に記録したもの。

問八 ⑦にあてはまる内容を考え、答えなさい。

問九 本文の内容と合うものとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

- ア 人間とアリマキの共通点は、自分では十分な量のアミノ酸を作れない点である。
- イ 人間とブフネラの共通点は、特定の生物に依存しないと生きていけない点である。
- ウ 人間と植物の共通点は、どんな個体も他人に寄生することで生きていく点である。
- エ 人間と動物の共通点は、独立して生きている個体がわずかに存在する点である。

二、次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

〔亜希は東京から北海道の学校に転校する初日、列車の中で、東京でのつらいことを思い出して泣いてしまう。偶然出会ったタロさん、ジロさんに助けられ、二人が経営しているレストランで休憩している場面である。〕

ガラス窓の向こうで、ザザーン、ザザーン、と海が優しく歌う。

テーブルに並んだコーヒーマーは三つ、手つかずのまま既に冷めていた。向かい側のベンチシート、タロさんとジロさんは、先刻からじつと亜希の話に耳を傾けている。

「教室で友だちと何でも知らない話をして笑ったり、帰りに寄り道したり、そんな当たり前の生活をしてみたかった」
これまでのことを誰も知らない所へ行けば、転校すれば、それが出来ると思っていた。

「でも、いざとなったら悪い方にばかり考えてしまつて……」

長い打ち明け話を終えて、亜希は膝に載せたタオルをぎゅっと握り締める。

そうか、とジロさんは太短く息を吐いた。

「それで列車に乗っていられなかったんだね」

タロさんは顎に片手をかけたきり、ひと言も口を利かない。

② 窓越しに、薄日が差し込む。重く垂れこめていたはずの雲が僅かに切れて、弱々しい陽射しが洩れていた。るるるる、るるるる、と店内に軽やかな電話の音が響いて、沈黙を破る。

「あ、僕が出る」

ジロさんは席を立ち、カウンターの隅に置かれた電話の受話器を手に取った。

「はい、レストラン『駅舎』です。開店は十一時からなんですが。え？ ああ、今夜、ご予約を頂いているかたですか」
受話器を片手に、ジロさんは予約の確認に応じている。

痩せていて強面のタロさんは料理担当、丸くて愛想の良いジロさんは接客担当なのか、と亜希はぼんやりとジロさんの丸っこい背中を見守った。

「見た目は随分と違うんだが」

マグカップに手を伸ばして、タロさんが口を開く。

「俺たちは似た者同士だね。国鉄入社も結婚も、親になったのも同じ頃だった。あ、国鉄ってわかるかい？」
今のJRの前身で、日本国有鉄道のことだ。もう誰もその名を口にしないけれど、確かに聞き覚えがある。

はい、と亜希が頷くと、タロさんは視線を壁の方へと移した。

額に入った写真が、何葉か飾られている。中に、JRのロゴを背景に、緊張した面持ちで並ぶ二人が写るものがあつた。

一見すると怖そうなタロさん、話しかけ易そうなジロさん。雰囲気こそ変わっていないが、ともに随分と若々しい。

「一九八七年の分割民営化で、多くの仲間が失職する中、何とか二人そろってJRに残ることが出来た。でも、その僅か二年後、勤務していた路線が廃止になってね」

③ 今から丁度十年前、俺たちは三十九歳だった、とタロさんは苦そうにコーヒーを啜った。

三十九歳、と亜希は口の中で小さく繰り返して、壁の写真を順に眺める。この駅舎の全景が写った一葉に、ふと目が止まった。
木造の古びた駅舎、細い木が一本と電柱、あとは背後にオホーツク海が迫るばかり。

「この駅だよ、当時は無人駅だった」

タロさんはマグカップから唇を離して、懐かしそうに写真を愛でた。

「無人化した駅舎を賃貸する、という話を聞いて、ジロと二人でここに見に来た。そして、ひと目で、何とか、魅入られてしまったんだよ」

ひと目惚れってやつさ、とタロさんは照れくさそうに笑う。

写真には写っていないのに、亜希には、駅舎を前に立ち竦んでいる二人の後ろ姿が、目に浮かぶようだった。

「家族を説き伏せて、ここで店を持つって決めたものの、もう挫折の連続でさ」

「挫折なんてもんじゃないよ」

電話を終えたジロさんが、タロさんの横に④と座って、会話に乱入する。

「こいつ、最初は玉子ひとつ真面に割れなかったんだぜ」

「……信じられない」

⑤と泡だて器で玉子を攪拌する、その滑らかな手つきを亜希は思い出していた。

「なあ、ビックリだろう？」

コックコートの生地を引っ張って揶揄うジロさんの手を、「てめえっ！」とタロさんは怒りを込めて払い除ける。

「調理師免許を取るのに、四回もダブったのは、一体誰だよ」

「何だよ、何で今、それバラすんだ」

⑥ 亜希の目の前で、売り言葉に買い言葉の応酬が繰り広げられる。決して嫌な感じはしない。仲の良い者同士がじゃれ合うような心地良さがあつた。

トム・ソーヤとハックルベリーが齡を重ねたら、こんな風なのかも知れない。想像すると、⑦、と柔らかな笑いが込み上げて、亜希は思わず両の手で口を覆う。強張っていた心がほろほろと解れていく。

何時、誰と出会い、どう友情を育んでいくかはわからない。けれども、何時までも怯えてばかりでは、出会うことさえ叶わない——眼前の二人の姿に、そっと背中を押される。

問一 ①「海が優しく歌う」とありますが、同じ表現技法が使われている文として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 庭の花が笑っている。 イ 家の窓は汚れている。

ウ 子供達たちが静かに座る。 エ 星が美しくかがやく。

問二 ②「窓越しに、洩れていた」とありますが、この表現から読み取れるものとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ひと言も口を利かない亜希が、陽射しをあびて元気になっていくことが予想される。

イ タロさんがこの場所から立ち去ることを、雲が切れる様子と重ねて表現している。

ウ ここまではつらかった亜希だが、ここからの展開で救われる可能性が感じられる。

エ 薄日が見えることで、ジロさんが受ける電話で話が盛り上がるということが予想される。

問三 ③「三十九歳、と、眺める」とありますが、その時の亜希の心情の説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 十年前の年齢ねんれいを聞き二人がとても若く見えることに驚いている。

イ このお店や勤める二人に興味を持てるほど落ち着いてきている。

ウ 三十九年前に起業したときの二人の苦労に興味を持っている。

エ 二人の話を理解できずにいることをごまかそうとしている。

問四 ④・⑤・⑦・⑨にあてはまる語として最も適するものそれぞれを選び、記号で答えなさい。

ア すつく イ どっか ウ かしゃかしゃ エ くくっ

問五 ⑥「売り言葉に買い言葉の応酬」とありますが、タロさん、ジロさんのどのような様子を表していますか。その説明として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 仕事の話で盛り上がるとなぐり合いのけんかをするほど、仕事だけを熱心に取り組んできた様子。

イ 二人の会話にはリズムがあり、今まで本音をまったく見せなくても苦労なく店の経営してきた様子。

ウ 互いの弱点を理解しているため、嫌なことを言われなにかどうか緊張している様子。

エ 長年の付き合いにより、テンポよく何でも言い合える信頼関係しんらいが成立している様子。

問二 次の熟語が類義語の関係になるように、にあてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

- ① 決心 || 決 ② 天気 || 天
③ 真心 || 意 ④ 刊行 || 出

問三 次の文の——線部のことばと同じはたらきをするものを選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)

- ① 庭に美しい花が咲さいている。
② もし願ねがいが叶なうなら歌手になりたい。
③ 君の言いっていることはほほ正ただしい。
④ 明日、家族で祖母の家に行く。

ア	会う	イ	太陽	ウ	明るい	エ	とても
---	----	---	----	---	-----	---	-----

問四 次の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① お墓はかに花を供ともえる。 ② 今は幹みを太くする時期だ。 ③ 母の看み病びょうのおかげだ。 ④ 疑うたがう余あま地ぢがない。

問五 次の文の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 友人とハクラン会かいで出会う。 ② 二人はタイショウしょう的な性格だ。
③ やがてゴールごーるにイタル。 ④ セイザせいざを見上げて語らう。